

いわての 林業人37

はじめに

今月の普及班便りでは、平成25年度岩手県地域林業促進活動褒賞事業で表彰された5名の方々を2回にわたってご紹介しています。今回、2回目は、2名の方をご紹介します。

佐々木 一夫さん (遠野市)



佐々木一夫さん (遠野市)

○地域のリーダーとして活躍

自ら約50haのスギ・カラマツ林や広葉樹林の造成・管理を行うかたわら岩手県指導林家として、森林組合などが実施する各種研修会への積極的な協力や林業普及指導事業の推進に御尽力いただいています。

また、所有森林を活用して、枝打や間伐の必要性、森林整備の重要性を指導・助言するなど、地域林業の振興に貢献しています。

○地域の森林整備に尽力

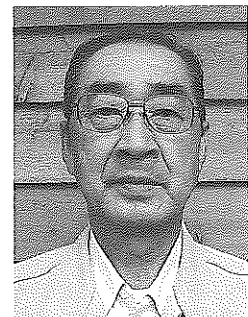
氏は、21歳の時に、祖父が経営する「佐々木林業土木」に入社して以来、現在まで約30年にわたって、県有林事業や環境の森整備事業などに携わってきています。

現在は会社を継ぎ、祖父と父から引継いだ「地域の林業振興に貢献する」をモットーに、日々、地域の森林施業に懸命に取り組んでいて、遠野地方森林組合が実施する路網整備や施業の提案及び作業を請負など、搬出間伐の推進にも積極的に取り組んでいます。

また、カラマツコンテナ苗の低密度植栽の取組みに、自己所有林を提供するなど、地域林業の先導的役割を担っており、地域のリーダーとして活躍しています。

今後の目標について、お話を伺ったところ、「会社の経営者としての責任を果たすために、若い林業技術者数名を、早く一人前になるように育てていかなければならない」との一言。会社の代表として、11人の従業員を抱え、その家族の生活に対しても、責任を果たさなければならぬという強い意志を感じました。

釜石地方森林組合代表理事組合長
佐々木 光一さん (釜石市)



佐々木光一さん (釜石市)

○地域林業の先導的な役割

釜石地方森林組合は、小規模な森林の施業集約化を進め、森林が吸収する二酸化炭素をクレジット化する取組み(J-VER制度)に参加するなど、持続的な森林経営を行っていくために、集約化による森林整備を意欲的に進め、地域の森林所有者、林業関係者や全国の森林組合の模範となっています。

森林施業の集約化は、全国の中でも早い段階で積極的に進めたほか、高性能林業機械や放射状の列状間伐と定性間伐を組み合わせた複合型間伐を導入するなど、先進的な取組みにより生産性の向上を図るなど低コスト搬出間伐も進めています。

また、J-VER制度などを積極的に活用し、間伐費用の一部に充てるなど、森林所有者の負担軽減を図る工夫により森林整備を推進しています。

なお、民間企業と連携した木質バイオマス事業へ積極的に取組み、林

地残材の有効利用により、森林所有者へ利益を還元しています。

○林業の振興に大きく貢献

東日本大震災で発生した津波により組合事務所が倒壊し、役員を含む5名の尊い命が奪われるなど甚大な被害を受けましたが、関係機関の支援を受けながら早急な復旧を果たし、地域林業への影響を少なくするように努めました。

また、震災により大きく落ち込んだ間伐材の新たな活用方法にチャレンジするなど、林業を通じた地域の復興や復興に積極的に取り組んでいます。さらに、被災した地域の早期復興を実現するため、岩手県森林組合連合会や関連する企業と連携した「森の貯金箱」プロジェクト事業を立ち上げ、地域木材をパネル化した低価格で良質な復興住宅を供給するなど、木材利用を通じた被災者支援も行っています。

おわりに

普及班便りでは、これからも森林・林業に携わるさまざまなの方々を紹介していきます。皆様の地域で活躍されている方がおられましたらご連絡ください。

林業技術センター普及班

019(698)1337